

# ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2014.3.20

# 32

春期企画展

冠松次郎生誕130年

かんむり まつ じ ろう      なか だ しゅん ぞう  
岳人 冠松次郎と学芸官 中田俊造

—戦前期における文部省山岳映画—



昭和2年夏、映画「黒部峡谷探険」文部省撮影隊一行の記念写真 個人蔵

会 期

平成26年3月15日(土)~5月6日(火・休)

時 間

午前10時~午後5時

会 場

北区飛鳥山博物館特別展示室・ホワイエ

休 館 日

毎週月曜日 ※ただし5月5日は開館

観覧  
無料

大正末から昭和初期にかけて滝野川町中里に居住していた質商 <sup>かんむり まつ じ ろう</sup> 冠松次郎 (1883-1970) は、大正14年 (1925) 8月に国内有数の峻嶮なV字谷である黒部川 <sup>しものろうか</sup> 下廊下を初めて溯行した登山家で知られています。溯行後は山岳景勝地を広く国民に知らしむべく健筆をふるうかたわら、文部省による「黒部峡谷探険」(昭和2年)・「劔岳」(昭和3年)・「赤石岳」(昭和4年)・「鹿島槍ヶ岳と下廊下」(昭和5年)・「尾瀬」(昭和6年)の記録映画製作に加わりました。その仕掛人は文部省の専門官 (学芸官・社会教育官) であった中田俊造 <sup>なか だ しゅん そう</sup> (1881-1971) です。富山県出身で冠松次郎とはほぼ同世代の中田俊造は、大正末から昭和初期にかけて、社会教育の分野で映画の重要性に着目し、映画を教育手段として普及させた先覚者です。

冠松次郎生誕130周年に当たる本年度、冠松次郎の業績に対する評価に新たな視点を加えるべく、かつて2000年秋に当館で没後30年を記念して催した冠松次郎の特別展では部分的にふれるのみにとどまった文部省映画を改めてとりあげます。冠松次郎達が映像等で国民に紹介したかったことは何だったのか、冠松次郎・中田俊造両氏の事跡と現在国に残されている映像資料を中心に館蔵資料等を加えて展示を構成し探してみたいと思います。



2014年桜咲く春  
たけなわの飛鳥山に  
どうぞお越しいただ  
ぎ、心ゆくまでご  
ゆっくりとご覧く  
ださい。(中野)

前列右より 日本山岳会員 冠松次郎 学芸官 中田俊造 撮影技師 白井茂  
後列左から2番目 山案内人頭 宇治長次郎

[ 関連事業 ]

1. 展示解説会

日時：4月6日(日)・4月20日(日) いずれも  
午後1時30分から2時30分

講師：担当学芸員

定員：30名

参加費：無料

申込：当日先着順

※詳細は当館までお問い合わせください

2. 学芸員が語る山岳映画上映会

日時：5月6日(火・休) 午後2時から4時

会場：当館講堂

内容：①昭和2年文部省製作「黒部峡谷探険」

(モノクロサイレント)

②昭和5年文部省製作「鹿島槍ヶ岳と下廊下」

(モノクロサイレント)

展示場でも紹介している上記2本の映画  
について、担当学芸員が映画の進行にあ  
わせて生解説を試みた後、山岳映像に詳  
しい専門家と対談をする予定です

定員：80名

参加費：無料

申込：往復葉書で当館まで4月24日(木)必着

※申込多数の場合は抽選

〈問い合わせ〉

〒114-0002

東京都北区王子1-1-3 北区飛鳥山博物館

TEL：03-3916-1133 FAX：03-3916-5900

URL：<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

[misc/history/museum/index.htm](http://www.city.kita.tokyo.jp/misc/history/museum/index.htm)

飛鳥山3つの博物館共通 Web サイト

<http://www.asukayama.jp/>

企画展：この資料に注目！



カムリです。

生前の冠松次郎の姿

東京国立近代美術館フィルムセンターからご協力をいただき、今回登山家冠松次郎が写っている映画4本を初めて全篇展示場で観覧できることになりました。展示資料等の顔写真を手掛かりにどの映画のどのシーンに登場するか画像上で確認してみたいはいかがでしょうか。



# れんが 「北区の煉瓦工場、 明治の都市をつくる」

大地  
水  
人

北区を散策していると、煉瓦を使った近代の建物や塀を目にすることがあります。区役所の近くの酒類総合研究所の赤レンガ酒造工場(旧醸造試験所の工場棟、明治37年(1904)設立)、赤レンガ図書館の愛称で親しまれている十条台の区立中央図書館(旧東京砲兵工廠銃包製造所の弾丸鉛身場275号棟、大正8年(1919)築)、十条富士見中学校の煉瓦塀(旧東京砲兵工廠銃包製造所の敷地境界壁、明治38年築か)、堀船の船方神社の煉瓦造神輿庫など、区内のレンガめぐりをされたことのある方も多いのではないのでしょうか。赤羽の被服本廠の建物など、今は姿を消した煉瓦建物も数多くあります。これらの煉瓦建物を建築するためには大量の煉瓦が使用されていたわけですが、そこには北区で製造された煉瓦が含まれていることがわかっています。

農商務省が編纂した工場・会社等の一覧『工場通覧』では、明治35年版に、東京府内煉瓦工場19軒が掲載されており、舟方の田中工場(創業明治2年)、豊島の斎藤煉瓦石製造所(同4年)、豊島の所(ところ)王子煉瓦石製造所(同29年)の記載があります。その後大正10年までに、北区には13の煉瓦製造工場が営業していたことが確認できます。所在地をみると、隅田川(旧荒川)沿いに集中しており、対岸の足立区側でも鹿浜・新田・宮城・小台などに工場ができています。隅田川流域は良質な粘土が採れ、燃料(松薪)や製造した煉瓦の運搬に水運が利用できるなど、煉瓦製造の立地条件に恵まれていたため、明治末には、この地域が煉瓦の一大生産地となっていました。東京砲兵工廠銃包製造所建造物の調査では、建物に日本煉瓦製造株式会社や大阪窯業株式会社などの大工場で製造された赤煉瓦のほか、煉瓦壁の腰部分から、千葉工場、斎藤工場、田中工場などの刻印を持つ煉瓦が発見され、隅田川流域にあった地元の中小煉瓦工場で焼かれた焼過(やきすぎ)煉瓦が使用されて



北区立中央図書館

いることが判明しました。

なかでも創業の早かった舟方の田中工場については、子孫宅に工場の経営に係わる文書類が残されています。創業者である田中榮蔵(文政12年(1829)生)は、文明開化の進展に伴って西洋建築が興隆し煉瓦の需要が増大すると考え、明治2年に煉瓦製造所を設立します。同10年頃には、赤煉瓦・磨煉瓦・黒煉瓦・異形煉瓦などを製造し、同11年からは登籠(のぼりがま)を設置して生産高を上げていきます。田中工場は創業当初から工部省に煉瓦を納品しており、その後も主な納入先をみると、工部省建築局、農商務省、板橋火薬製造所、小石川砲兵工廠、印刷局抄紙部、上野博物館、鉄道局、浅野セメント会社や日本鉄道株式会社などがあり、市中だけでなく官庁・軍施設とのやり取りが頻繁になされているのが目を引きます。工部省を通じて有栖川宮邸建設にも関わり(明治14年着工)、明治23年には、東北本線仙台青森間鉄道隧道(ずいどう)工事用の煉瓦製造を請け負い、岩手県一戸町に工場を新設して2年間で煉瓦550万本を生産しました。

隅田川沿いの中小の煉瓦工場が、明治期の近代都市の形成を支えていた、そんなことを思いながら煉瓦めぐりをしてみたいかがでしょう。(田中)

## VOICE

## 相手の立場になって考えよう ミュージアムの外国語表記について

異文化に属する人たちが、他国の歴史や文化をてっとり早く知る場所に、ミュージアムがある。外国のミュージアムを訪れると日本語音声ガイドの充実ぶりには目を見張るものがあるし、各国語版の展示印刷物が置かれていることも多く、展示内容を理解する上で重宝この上もない。異文化理解に資すること多大な外国語表記や音声ガイドであるが、当館の常設展示でもすでに英語・中国語・ハングルの音声ガイド・サービスが行われて久しいものがある。

その延長として最近、企画展レベルで外国語表記を行った事例に、昨春の「ボンジュール、ジャポン ゆかしくカワイイ、和のかたち

と風景」があった。展示構成や図録本文の各解説、個別資料名にフランス語表記を併用したところ、外国の方々多数のご来館もあったためか、「展示意図がよく分かった」、「資料名称や年代を知ることができた」などの声も聞かれ、利用者の好評を得ることができた。

人口に膾炙したかの感がある、滝●クリス●ルの「お・も・て・な・し」ではあるが、おもてなしの心とともに、情報レベルにおける使い勝手の良さは不可欠であろう。今後、館内の外国語サイン計画や、常設展示図録の多言語化など、外国語表記の必要性が高まることが予想されるなかで、企画展の外国語表記についても、さらなる検討を加えていきたいと思う。(石倉)

## 「名所物語 浮世絵にみる 北区の江戸時代」を終えて

当館では10月22日(火)から12月23日(月・祝)を会期として、北区に関する浮世絵展を開催した。本展は、浮世絵コレクターとして著名な伊藤紀之氏(共立女子大学名誉教授・国際浮世絵学会理事)のご協力を得て、全192点に及ぶ貴重な資料を展覧するものであった。

ホワイエでは、大型木軸パネル3枚によって、展示意図を示すほか、うちわ絵をイメージしたパネルを構成した。続く特別展示室では、LED照明を内蔵したケース多数を配置し資料を列品したところ、照度も十分に確保できたためか「鮮やかな色彩に感動した」、「詳細なところまで見ることができた」など、アンケートでもおおむねご満足を頂けたようであった。また資料特性を鑑みて、会期を全4期に分け編年順に列品計画を行った。第1期では鳥居派の優品をはじめ北斎などの浮世絵版画黎明期の資料を展示し、第2期は歌川国貞や溪斎英泉の趣向を凝らした名所絵の数々を、続く第3期では広重をはじめ

# Event Report

とする圧倒的な迫力の風景版画を展示し、最後の第4期では幕末維新期の作例や珍しいガラス絵、泥絵などバラエティに富む展示となった。会期を通じてリピーターも多く、総入場者は12,000人を超え、また会期中に図録(総頁176頁)も完売となるなど、反響の大きさを知らることのできた展示であった。(石倉)



秋期企画展の看板

## 「喜劇 駅前開運」上映会

昭和43年(1968)に公開された東宝映画「駅前」シリーズの第22作目「喜劇 駅前開運」をご存知でしょうか。(東京映画株式会社製作/監督:豊田四郎 主演:森繁久彌、伴淳三郎、フランキー堺)

舞台のモデルが赤羽とされ、昭和42年、実際に赤羽駅の周辺で地元の協力のもと撮影された作品です。昭和49年4月の『赤羽漫歩』によるとロケは13日間行われたようで、昭和を代表する名優たちが赤羽の懐かしいあの場所・この場所で熱演を繰り広げています。

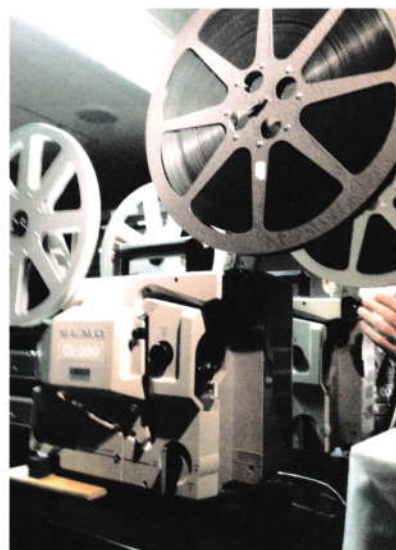
2013年12月14日(土)、作品を通して昭和40年代の赤羽周辺の様子を窺い知ることができるため、この「喜劇 駅前開運」の16mmフィルムを、講堂にて上映することいたしました。

さて、実は当館が開館して15年、商業用の映画を上映したことはありませんでした。もちろん当館には映画館のような外部との遮音用の扉はないですし、整った音響設備やゆったりした座席など映画鑑賞向けの快適な設備はございません。そのような中での上映会です。当館

の設備のせいで作品に悪い印象を与えるようなことはあってはならぬ、ということでN学芸員と上映テストを行いつつ環境をできるだけ調整しました。

そして緊張した気持ちで当日を迎え、午前・午後の回で上映をしました。結果、非常に満足いただけたようで、アンケートで作品の感想もさることながら「懐かしい赤羽の様子が観られてよかった」など、嬉しいお言葉をいただきました。

なお「喜劇 駅前開運」はDVDになっています。昭和の名優たちと昔懐かしの赤羽をご覧になってみてはいかがでしょうか。(人見)



調整の様子

## もっと知りたい！ちょっと気になるこの一品 王子名園名主の滝遊園地案内図

常設展示室「地図にみる北区の近現代」コーナーに昭和15年(1940)に発行された名主の滝の案内図があります。もとは折り畳まれた小さなリーフレットですが、広げると横53cmの色鮮やかなパノラマ図が現れます。

嘉永年間(1848-53)に王子村名主の畑野孫八が私邸の庭に開いたとされる名主の滝は、明治中期に垣内徳三郎という実業家の手に渡って那須塩原の風景を模した庭園に改修されました。やがて昭和13年には精養軒に買収され、庭園の姿を保ちつつも遊園地として経営されます。

案内図では名主の滝一帯が大きな山のごとく強調して描かれています。まず、目を引くのは画面手前のボート乗り場を備えた「天心池」。白鳥型のボートが家族連れに人気だったようです。池の傍にはラジウム鉱泉の「温泉青水荘」の家屋が並び、滝や溪流の間にいくつもの茶屋・四阿・座敷などが点在。高台には25mプー

ルや「厚生保健運動場」「大弓場」がみられます。また、昭和6年発行の冊子『下十条駅開通記念』には同園のゴルフ場も掲載されており、戦前の同園が滝<sup>あ</sup>みや紅葉だけでなく四季を通じてレジャースポットかつ社交場として賑わっていたことがうかがい知れます。

昭和20年4月の戦災で園内施設は焼失しましたが、深山溪谷の風情は区立公園となった今もそのまま。かつての賑わいに思いを馳せながら、現地にも足を運んでみてはいかがでしょうか。(久保瑩)



王子名園名主の滝遊園地案内図(部分)

資料  
紹介

## 名所終り村名始め



「いろはにはへと」ではなかった、皆様が文字を習った頃は「あいうえお」でしょうか。『名所終り村名始め』という文書は、袋村(現在の赤羽北地区)の農家で明治4年(1871)に生まれた人が手習いに使ったものです。1頁あたり6文字が大きく丁寧な字で書かれています。内容は袋村とその周辺の78の地名です。それらは記述の順に4つのエリアに分けられます。まずは「岩淵本宿町」(日光御成道の第一番目の宿)から始まり、「下村(志茂)・神谷・豊島・梶原堀之内(堀船)・船瀧(堀船)・西尾久)・尾久・三河島・根岸・金杉・千駄木・新堀(日暮里)・田端・西ヶ原・中里・王子・十条・稲付谷・滝野川・赤羽・袋」(一部表記を補った)のように、現在の北区とその近接地で、袋村の南東に位置する地域が記されます。それに続くのは、袋村の南および西側にあたる現板橋区や豊島区の地域です。ここまでの地名は大半が北豊島郡(明治11年設置)に属していました。そのあとには袋村の西および北西、荒川および新河岸川・隅田川(旧荒川)右岸で現新座市・志

木市・和光市、練馬区あたりの地名が並びます。最後に、袋村の北西および北側にあり荒川左岸に位置する現足立区、川口市・戸田市に属する地域が記され、「浮間・戸田・前川」で終わります。北区浮間は、明治期には埼玉県北足立郡に属しており、そうした地域区分が反映されています。江戸の息遣いが残る北区の近代教育の実態を表すとともに、行政的な区割と併せて、荒川が地域区分のひとつの基準であり、地縁を形成する要素となっていたことがうかがえます。(増田)



## よくぞ残った、木製の耳飾り

木は腐ります。木材腐朽菌が木の成分を栄養として活動し、分解してしまうからです。遺跡を発掘すると、土器や石器といった腐食しない遺物は多く出土するものの、本来はあるべき木製品などの道具類をほとんど目にしないというのは、このことに由来します。しかし、ある一定の条件を満たすと、土に埋もれた木製の道具は現代にその姿をみせるのです。その条件とは、①水分を多く含んだ土に埋もれていること、②空気から遮断されていること、③温度が冷温であることです。つまり、木材腐朽菌が活動しない安定した状態であれば、残存する率は高くなるのです。

袋低地遺跡から出土した「木製耳飾り」も、現代に姿を現した貴重な木製品の一つです。縄文時代後期の河川跡から出土したこの耳飾りは、直径が6.5cmもある大型のものです。表面には赤漆が塗られています。その装着方法は耳たぶに孔をあけて嵌め込む、現代でいえばピアスです。縄文時代の耳飾りといえば、そのほとんどが粘土を焼いた土製で、木製のものはほとんど

見られません。もともとその数は少なかったのでしょうか。それともその数は多かったのですが、残念ながら現代には残されなかったのでしょうか。いずれにしても、この袋低地遺跡から出土した「木製耳飾り」は偶然が重なって残された、いにしえからの貴重な贈り物といえるでしょう。(鈴木)



## 写真に見る

## あの日あの時

## 昭和44年赤羽駅西口

昭和40年代以降、大きく姿を変えた赤羽駅。再開発で見られなくなってしまった西口の風景を切り取った一枚です。この写真を懐かしい気持ちでご覧になられている方、逆に新鮮な驚きをもって眺める方、双方いらっしゃると思います。赤羽に住み始めてまだ数年ですが、街の魅力にすっかり取り憑かれている筆者にとっても、西口駅前のかつての光景をとどめるこの写真は、なんとも感慨深い一枚といえます。

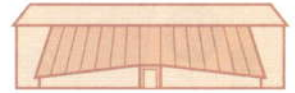
さて、写真を眺めてみましょう。雨上がりのお昼、半そでの人もちらほら見えます。季節は初夏でしょうか。右に映っている建物は駅舎です。ずらりと並んだタクシーは、駅を出たお客の乗車を待っています。奥に見える跨線橋には、たくさんの方が行き交っています。撮影者のメモによると、この跨線橋は「どどん橋」とも呼ばれていたそうです。その理由は昔、床部分が木製だったため、人が歩くたびにどどんという音を出していたからといひます。いわゆる「開かずの踏切」が問題になっていた赤羽駅周辺で、この橋はいかに重宝されたことでしょうか。国際興業バスは、「赤羽駅西口—池袋駅東口」の路線です。ターミナルがこの写真のほど近い場所にあり、そちらに向かって走っていくところのようです。(人見)



浦野栄一氏撮影



# 博物館インフォメーション



## 新規ミュージアムグッズのご案内

新しいミュージアムグッズは、飛鳥山にゆかりの桜の模様をあしらった「紙ペン」(キャップ式黒ボールペン&シャープペンシル)です。紙ペンはその名の示す通り本体が国産再生紙でできています。そのため、環境に優しいのが特徴です。キャップ式はエコマーク認定(認定番号:第05112618号)を取得、シャープペンはリサイクル率約95%です。手になじみ、にぎり心地も抜群。軸の色は5色を予定しております。当館にお立ち寄りの際は、お手に取っていただくと幸いです。(今春販売開始、販売価格1本100円)



## 今年も大盛況の

### 「来て、見て、さわって! 昔の道具」

飛鳥山博物館の冬といえば、学芸員総出で取り組む「来て、見て、さわって! 昔の道具」です。小学校3年生の社会科の「古い道具と昔の暮らし」に対応した本事業。会期中(平成26年1月11日~2月28日)は、特別展示室にて、明治~昭和時代の生活用具約80点のハンズ・オン展示を行いました。

今年は会期中の平日に、北区の公立・私立の全小学校40校のうち39校の3年生のみなさんが来館し、特別展示室で「昔の道具調べ」、そして「かまど」「せんたく」「ふるしき」などの昔の道具を実際に使う体験を行いました。

土・日・祝日の「昔の道具」展の一般公開も、たくさんの方にご来館いただき、誠にありがとうございました。来冬も楽しみに!



## ミニ展示「あすかやま十二支」を行いました

去る年末年始に、当館初の試みとして、新年の干支にちなんだミニ展示「あすかやま十二支」を行いました。今年も、そして新年度からも万事うまくいきますように。



馬乗り猿(古賀人形) 川崎房五郎氏寄贈

## スポット展「北区のレンガ、明治の都市をつくる

—堀船地区田中煉瓦文書にみる北区の近代産業—  
を開催します!

本号「大地・水・人」でもご紹介した、堀船地区田中煉瓦文書を紹介するスポット展を開催します。

田中煉瓦工場の経営に関する古文書や、煉瓦を焼いた竈の図面のほか、田中煉瓦工場で焼かれた穴あき煉瓦・水切煉瓦などのちょっと珍しい形のレンガなどを展示し、明治期のレンガ産業の様子をご紹介します。ホワイエでは、区内の赤レンガの写真パネル展示も行います。

会 期:平成26年5月17日(土)~6月15日(日)

会 場:当館特別展示室・ホワイエ 観覧無料

## 【飛鳥山アートギャラリー第2室】

作品を増やして、新たにオープン!

北区在住の人間国宝・奥山峰石氏の鍛金工芸作品を展示している3階・飛鳥山アートギャラリー第2室では、この冬、展示ケースを新たに増設いたしました。

3月11日(火)からはより多くの作品が展示され、また奥山氏の制作工程を記録した最新の映像もご覧いただけるようになりました。花見時には展示室から満開の桜を眺めつつ、美しい作品をご鑑賞いただけます。ぜひお立ち寄りください。

## 捨てないで! 昔の北区の様子分かる写真・フィルム(8mm・16mmなど)を探しています!

ご自宅に古い写真やフィルムはありませんか?戦前から昭和に撮影されたもので、昔の北区の街並みや人々の暮らしぶりが分かるものを探しています。もしも整理や処分をお考えの場合は、ひとまず博物館までご一報していただくと幸いです。

< 展 示 >

- 春期企画展「岳人冠松次郎と学芸官中田俊造—戦前期における文部省山岳映画—」(3/15～5/6)
  - ・ 展示解説会 (4/6・4/20)
  - ・ 学芸員が語る山岳映画上映会 (5/6)
- テーマ展示「オボエテマスカ? —あの暮らし・この道具—」(3/15～6/22)
- スポット展示「北区のレンガ、明治の都市をつくる」(5/17～6/15)
  - ・ ギャラリーレクチャー (5/18・6/7)
- テーマ展示「大岡家文書からみる王子村」(5/17～9/7)
- 特別展覧会「第13回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9月中旬～10月中旬)

< 一般講座 >

- ご近所歴史探検隊!①浮間編 (4/19)
- 飛鳥山十二景の世界 (4/26)
- 徳川吉宗と飛鳥山碑 (4/27)
- いざ、鎌倉! 学ぶ編 (5/25)
- いざ、鎌倉! 歩く編 (5/28・29)
- 都電と地下鉄の記録映画会 (6/15)
- 村絵図にみる北区の村 (6/22)
- 北区近郊富士塚めぐり (6/29)
- 新聞から読む考古学
  - 2014年上半期を振り返る— (7/13)
- ご近所歴史探検隊!②王子編 (7/26)
- 台風の記録映画会 (9/21)
- 常設展示関連講座 (5/18・6/7・7/6・8/30・9/13)

< 親子向け講座 >

- 夏休みわくわくミュージアム☆2014 (7/23～8/31)
    - ・ 夏休み勾玉 / 土器づくり教室
    - ・ チャレンジ! 昔の手仕事～藍染 / キツネのお面づくり
    - ・ 都電 / 地下鉄車庫見学会
    - ・ 江戸の縁起物・絵馬を作ろう
    - ・ 荒川の生物・環境を調べよう
    - ・ 昔のおもちゃを作って遊ぼう
    - ・ 牛乳パックで行燈をつくろう
    - ・ 和のデザインで団扇作り
    - ・ ミニわらざるをつくろう
    - ・ 第6回3館まとめてクイズラリーめざせ! あすか山クイズ王
- ※催し物の名称は仮称、開催日は予定です。

お知らせ

館内消毒にともなう臨時休館  
 収蔵資料を虫害やカビから守る殺虫・殺菌処理(燻蒸)にともない、7月1日(火)から7月4日(金)まで臨時休館とさせていただきます。詳細な日程は、北区ニュース、北区公式HP等でお知らせいたします。何卒ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

北区飛鳥山博物館だより

ぼいす32

発行日 平成26年3月20日  
 編集・発行 北区飛鳥山博物館  
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3  
 TEL. 03-3916-1133  
 印刷 東京リスマチック株式会社

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

まずは、年始のミニ展示「あすかやま十二支」をご覧いただいた皆様に御礼申し上げます。このたび「馬乗り猿(古賀人形)」(川崎房五郎氏寄贈)とともに、展示デビューをいたしました。「あすかやま十二支」で今年の干支である馬に関する資料を1点展示することになり、そのための資料を探していたとき、ふと幼き日の思い出がよみがえりました。祖父とともに、祖父母宅の神棚に供えてある駒曳銭を見たことです。馬と猿の組み合わせは大変おめでたいもので、先祖が家を建てたときに記念に造ったものだと聞いたように記憶しています。駒曳銭というのは、俵を積んだ馬が猿などに手綱を曳かれている絵が鑄込まれた絵銭の一種です。絵銭とは、まじないや吉兆を意味する文字や図柄を銭の形に鑄出したものです。そうした印象がきっかけとなり、先の展示に結び付きました。本の知識も学校の授業ももちろん大切ですが、日常の何気ない出来事が自身自身を形作っていて、それがふとした瞬間につながることもあるのだと改めて感じました。今後も、少しでもうまうまい動きができるよう全力で駆けてまいります。(増田)

馬と猿  
 幼き思い出  
 いざ咲かん



利用のご案内

【開館時間】

午前10時から午後5時  
 ※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】

毎週月曜日  
 (月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)  
 年末年始(12月28日～1月4日)  
 このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者(65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円



- ・ JR 京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
  - ・ 地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
  - ・ 都電荒川線 飛鳥山停留場より徒歩4分
  - ・ 都バス 草64、王40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
  - ・ 北区コミュニティバス 飛鳥山公園停留所より徒歩1分
- ※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

- ・ 小学生未満は無料
- ・ 団体扱いは20名以上
- ・ 三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧になれます。

編集後記

この冬は例年にない大雪に見舞われた東京ですが、飛鳥山公園の樹木も雪の重さによって枝が折れたり、倒木したりと大変な被害を受けました。しかし季節は春を忘れず、自然は強いもの。公園内の桜の蕾は少しずつ膨らみ、春を迎える準備をはじめたようです。さて、編集人は当館を卒業するため、「ぼいす」製作は新編集人にバトンタッチします。普段知ることのない博物館展示の裏側を垣間見るような記事ラインナップを心がけました。お楽しみいただけたでしょうか? 長らくありがとうございました。北区飛鳥山博物館がある限り、ぼいすは不滅です。次号もどうぞお楽しみに! (人見)